

ＴＯＫＹＯレジリエンスボンドの発行について

2026年度　東京都財務局

東京都

「１００年先も安心」を目指して

TOKYO 強靭化 PROJECT

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

投資家の皆様へ

日頃より、都債へのご理解・ご協力を賜りありがとうございます。
東京都は、2017年に国内地方自治体で初となる「東京グリーンボンド」を発行して以降、
「東京ソーシャルボンド」や「ＴＯＫＹＯレジリエンスボンド」など、SDGs債の発行を継続し、
投資家の皆様とのコミュニケーションを重視した起債運営を行ってきた中で、
多くのご賛同・ご参加をいただいてまいりました。

この度、東京都では、国内市場で初めてＴＯＫＹＯレジリエンスボンドを発行する予定です。
安全・安心な都市・東京に向けた、都市のレジリエンス強化を財政面から下支えします。

本IR資料は、ＴＯＫＹＯレジリエンスボンドの起債背景を始め、
フレームワークや資金使途についてご紹介しております。
理解を深めるための一助としてご活用いただけますと幸いです。

ＴＯＫＹＯレジリエンスボンドにつきまして、前向きなご購入の検討を、
何卒宜しくお願い申し上げます。

東京都財務局主計部公債課

目次

東京都の財政 …… P. 1

ＴＯＫＹＯ強靭化プロジェクトについて …… P. 2

サステナブル・レジリエンス・ファイナンスの取組（都債） …… P. 4

ＴＯＫＹＯレジリエンスボンドの発行概要 …… P. 5

ＴＯＫＹＯレジリエンスボンドのフレームワーク …… P. 6

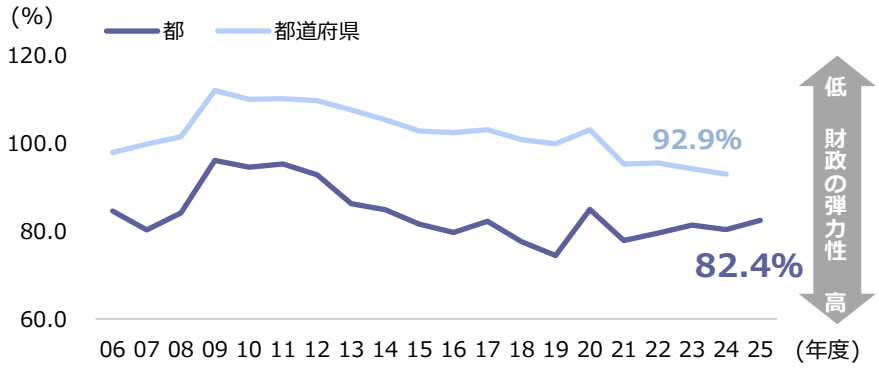
充当予定事業一覧 …… P. 7

充当予定事業の紹介 …… P.10

東京都の財政(2025年度決算)

経常収支比率

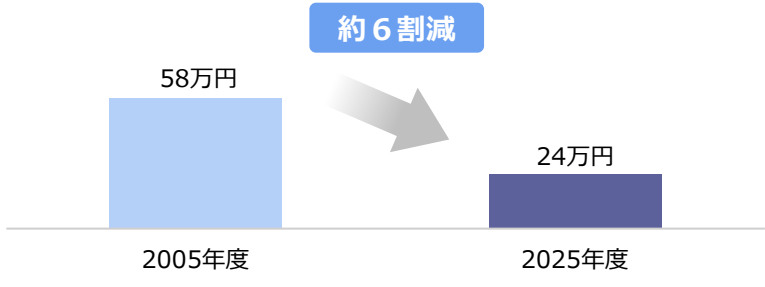
- 人件費などの容易に削減することが困難な経常的経費に対し、地方税などの経常一般財源等がどの程度充当されているかを示す指標



※都道府県の比率は加重平均であり、2006年度は減税補塡債及び臨時財政対策債を、2007～2019年度は減収補塡債特例分及び臨時財政対策債を、2020～2021年度は減収補塡債特例分、猶予特例債及び臨時財政対策債を、2022～2024年度は減収補塡債特例分及び臨時財政対策債を経常一般財源等から除いて算出したものです。

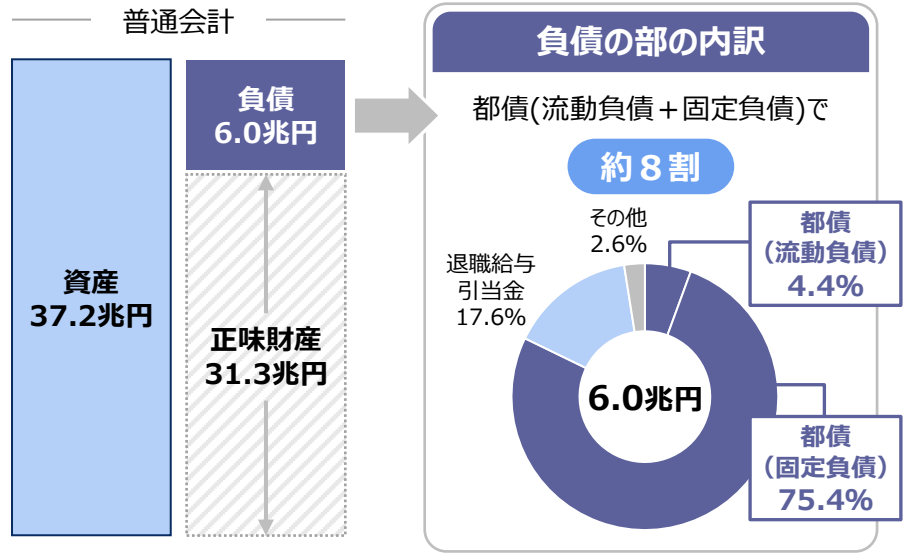
1人当たり都債残高の比較

- 都債の都民１人当たり残高は大きく減少しており、将来負担の軽減



※東京都「東京都の人口（推計）」による10月１日時点の人口を基に算出しています。

貸借対照表



※端数処理の関係上、合計と内訳が一致しない場合があります。

都債の格付け

- 規律ある財政運営の堅持などが評価され、長期発行体格付けは「A＋」、国の影響を除いた都単独での評価（スタンドアローン評価）は「aa＋」を獲得

東京都債の格付け

発行体格付け	スタンドアローン評価
A+	aa+
（国の格付と同水準）	

S&Pグローバル・レーティングから取得

ＴＯＫＹＯ強靭化プロジェクトについて

「ＴＯＫＹＯ強靭化プロジェクトの公表

- 東京は、政治・経済の機能が高度に集積する国家の中枢であり、日本の1割を超える人口や多様な産業・大学・研究機関が集中する世界有数の大都市であることから、東京が災害に対して強靭化を図ることは、日本全体を災害に強くするためにも重要
- このため、気候変動の影響による災害の頻発化・激甚化や複合発生リスクの高まりを踏まえ、令和4年12月に「TOKYO強靭化プロジェクト」を立上げ、5つの危機に対する2040年代の目指す姿や方向性を提示
- さらに、その道筋を確かなものとするため、気候変動の影響なども踏まえてハード・ソフト両面から施策を強化し、令和5年12月にプロジェクトをアップグレード
- こうした取組を財政面から下支えするため、令和7年10月に「ＴＯＫＹＯレジリエンスボンド」を発行

プロジェクト推進の考え方

R4年度

- **TOKYO強靭化プロジェクトの立上げ（ R4.12）**
  ➡５つの危機に対して、**2040年代に目指す姿** と、その実現に向けた**方向性**を示す



始動

風水害	激甚化する風水害から都民を守る
地震	大地震があっても「倒れない・燃えない・助かる」まちをつくる
火山噴火	噴火が起きても都市活動を維持する
電力等途絶	災害時の電力・通信・データ不安を解消する
感染症	感染症にも強いまちをつくる

R5年度

- **TOKYO強靭化プロジェクトをアップグレードし、公表（ R5.12）**
  ➡R４年度に示した「強靭で持続可能な都市」の実現に向けた**道筋を確かなものへと固める**



アップグレード

R6年度
～

事業推進
不断の強化

- 全庁一丸で継続的にプロジェクトを展開していくため 、**「『未来の東京』戦略」の中で、施策の推進**及び**不断の強化**
- **Ｒ７年10月 TOKYOレジリエンスボンド**の発行**(世界初のレジリエンスボンド（国際認証取得済））**

2040年代に目指す強靭化された東京の実現
「100年先も安心」を目指して

ＴＯＫＹＯ強靭化プロジェクトについて

プロジェクトの詳細につきましては、
リンク先の動画もあわせてご参照ください。

VIDEO LINK

東京に迫る5つの危機と主な事業

風水害

『激甚化する風水害から都民を守る』



＜主な事業＞

- 河川整備（護岸や調節池等）の更なる推進
- 下水道浸水対策の強化
- 都市基盤としての高台まちづくり

事業規模(概算)[※2、3、4]の内訳

- 7.1兆円
  - うち当初10年間：2.0兆円

地震

『大地震があっても「倒れない・燃えない・助かる」まちをつくる』



＜主な事業＞

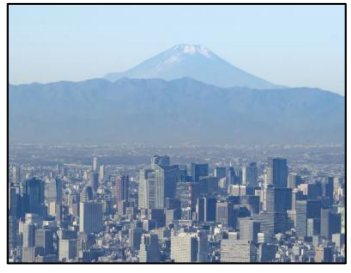
- 緊急輸送道路網、アクセスルートとなる道路等の事業推進
- 耐震強化岸壁の整備推進
- 水道管路・下水道管路の耐震化の推進

事業規模(概算)の内訳

- 9.6兆円
  - うち当初10年間：3.8兆円

火山噴火

『噴火が起きても都市活動を維持する』



＜主な事業＞

- 水道施設の降灰対策の推進
- 避難に必要な噴火災害に対応した待合所や駐車場の整備
- 降灰時における警察・消防活動の確保

事業規模(概算)の内訳

- 2.1兆円
  - うち当初10年間：0.6兆円

電力等途絶

『災害時の電力・通信・データ不安を解消する』



＜主な事業＞

- 地産地消型再生可能エネルギーの更なる導入促進
- 水素社会実現プロジェクト
- OpenRoaming[※1]対応公衆Wi-Fiの整備

事業規模(概算)の内訳

- 1.4兆円
  - うち当初10年間：1.3兆円

感染症

『感染症にも強いまちをつくる』



＜主な事業＞

- 開発機会をとらえた駅周辺の利便性向上・ゆとりある空間創出
- 利用者ニーズを踏まえた都立公園・海上公園の新規整備
- 自転車通行空間の整備推進

事業規模(概算)の内訳

- 0.7兆円
  - うち当初10年間：0.4兆円

※1 OpenRoaming：一度のアカウント登録により、暗号化された安全な Wi-Fi を利用できる世界共通の認証基盤
※2 事業規模(概算)：本プロジェクトの推進に必要な、令和5（2023）年度から2040年代までの 事業規模を示している
※3 事業規模(概算)： 現時点での事業規模であり、今後変更が生じる可能性がある
※4 事業規模(概算)：複数の危機に対する事業があるため、合計は総事業規模と一致しない

サステナブル・レジリエンス・ファイナンスの取組（都債）

▶ 東京都におけるSDGs債発行状況

- 2017年に**国内地方自治体初**となる「東京グリーンボンド」を発行。以降、「東京ソーシャルボンド」（2021年初回起債、**国内地方自治体初**）や「ＴＯＫＹＯレジリエンスボンド」（2025年初回起債、**世界初のレジリエンスボンド（国際認証取得済）**）等、SDGs債の発行を毎年継続
- 持続可能で強靭な社会の実現を金融面から支えるため、「サステナブル・レジリエンス・ファイナンス」を先導する都市を目指す

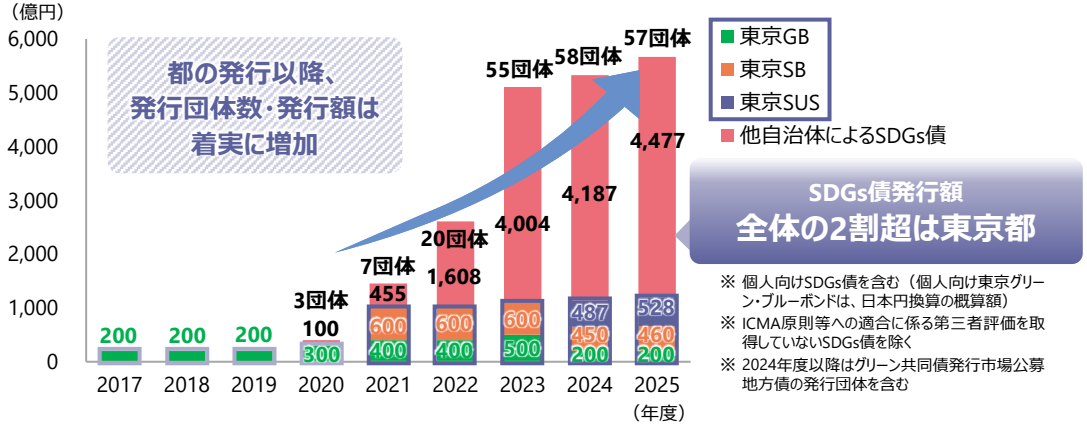
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度（予定）
グリーン・ブルーボンド※1	第1回 計200億円（100億円）	第2回 計200億円（100億円）	第3回 計200億円（100億円）	第4回 計300億円（100億円）	第5回 計400億円（100億円）	第6回 計400億円（100億円）	第7回 計500億円（100億円）	第8回 計200億円（100億円）	第9回 計200億円（100億円）	年度合計 約1,500億円 を発行予定
ソーシャルボンド	国内自治体初のグリーンボンド発行			コロナ対策関連起債※2 600億円	第1回／第2回 計600億円	第3回／第4回 計600億円	第5回／第6回 計600億円	第7回／第8回 計450億円	第9回／第10回 計460億円	「100年先も安心」を目指して TOKYO 強靭化 PROJECT
ＴＯＫＹＯレジリエンスボンド（外債・国内債）				国内自治体初のソーシャルボンド発行				東京サステナビリティボンド 計487億円	第1回 計528億円	ＴＯＫＹＯレジリエンスボンド 国内外で合計1,000億円程度

国内自治体初のESGラベル付き外債

ＴＯＫＹＯレジリエンスボンドへバージョンアップ

※1 発行額のうち（）内は個人投資家向けの発行額（日本円換算の概算額。毎年100億円発行）
※2 2020年度コロナ対策関連起債（600億円）を除き、全て第三者認証を取得

国内地方自治体のSDGs債発行状況※



※ 個人向けSDGs債を含む（個人向け東京グリーン・ブルーボンドは、日本円換算の概算額）
※ ICMA原則等への適合に係る第三者評価を取得していないSDGs債を除く
※ 2024年度以降はグリーン共同債発行市場公募地方債の発行団体を含む

SDGs債関連アワード受賞状況

リフィニティブ・ジャパン株式会社

「DEALWATCH AWARDS 2022」
Sustainable Finance Issuer of the Year

「**ESG債での調達を率先**して行い、存在感を示した。国内外への情報発信強化により**投資家からも賛同**が得られたことで、超過需要を集めた」

Japan Times

「Sustainable Japan Award 2023」
ESG部門審査員特別賞

「グリーンボンドやソーシャルボンドの発行なども行っており、**東京都のこのような先駆的な取り組みは、地方自治体のESG債市場の活性化に大きな影響を与えている**」

Environmental Finance（英国・環境金融専門誌）

「Sustainable Debt Awards 2026」
Sustainability Bond of the year – local authority/municipality

「発行額3億ユーロの**レジリエンス・ボンド（気候変動適応策に特化したサステナビリティ・ボンド）を発行し、世界的な新たなベンチマークを確立**した」

Climate Bond Initiative

「Climate Bond Awards CONNECT 2026」
First Climate Bonds Certified Adaptation & Resilience Deal

「TOKYOレジリエンスボンドは、資本市場がいかに**都市の強靭化を後押し**できるのかを示すものである」

ＴＯＫＹＯレジリエンスボンドの発行概要

回号	令和8年度 第1回
発行年限	5年
発行額	100億円程度
資金使途	ＴＯＫＹＯ強靭化プロジェクトの対象事業
発行価格	100.00円
条件決定日	11月下旬以降
発行日	12月上旬以降
取得格付	A+ （S&Pグローバル・レーティング・ジャパン）
外部評価機関	株式会社格付投資情報センター（R&I）

ＴＯＫＹＯレジリエンスボンドのフレームワーク ※一部要約抜粋

I. 調達資金の使途	• フレームワーク別表、ＴＯＫＹＯ強靭化プロジェクト対象事業に充当
II. 事業の評価・決定プロセス	① 関係部局がＴＯＫＹＯレジリエンスボンドの要件に該当する事業を確認し、事業情報を財務局へ提出 ② 財務局は、充当可能事業を選定し、「環境」、「社会」及び「ガバナンス」側面における各項目に照らして適格性に関する評価を実施 ③ 事業の実施に伴う環境・社会的なリスク低減への対応内容を確認し、対象事業を決定 ④ 翌年度1回以上、関係部署と連携して事業が適切に実施されていることを確認。仮に問題が発生した場合には、関係部署と協議し、速やかに改善に向けて対応
III. 調達資金の管理	• 資金使途を明確にするため、都の規則に基づき経理区分に応じて分類し管理 • 原則として当該年度中の対象事業に充当 • 各会計年度の終了後に決算関係書類を調製し、議会の認定に付される
IV. レポーティング	• 発行前に対象事業の資金充当予定額や想定される効果等を、発行翌年度末までに対象事業の資金充当結果や効果等の情報を、都のホームページにおいて公開 • 対象事業の資金充当結果については、翌年度インパクトレポートを作成し、都のホームページにおいて公開

フレームワーク　外部評価機関による評価　インパクトレポート

東京都のホームページにて公開しております！

TOKYOレジリエンスボンド　検索

※2026年度発行のTOKYOレジリエンスボンドについては、2027年度作成のインパクトレポートに掲載予定

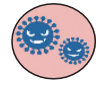


充当予定事業一覧

■ソーシャルプロジェクト

事業区分	対象事業	対応する社会的課題	効果の測定指標	対応する危機
公共施設・インフラの防災対策	① 防災公園施設整備	災害時の避難場所や救出・救助の活動拠点等の確保	更なる防災機能強化の推進	
	② 水道施設等の自家発電設備の新設・増強	大規模停電時等における安定給水の確保	大規模停電時における給水確保率	
	③ 水再生センター・ポンプ所の震災対策	首都直下地震などが発生した際の下水道機能の確保	非常用発電設備を整備し、停電時にも施設の安定的な運転に必要な発電能力の増強が完了した水再生センター・ポンプ所等の数	
	④ 街路整備	災害時の避難・救援路、防災拠点へのアクセスルート等となる道路の確保	整備延長	
公共施設・インフラの老朽化対策	⑤ 橋梁の長寿命化事業	持続可能なインフラの維持管理、利用者の安全・安心の確保	長寿命化事業累計着手数	
	⑥ 港湾施設の長寿命化事業	持続可能なインフラの維持管理、利用者の安全・安心の確保	長寿命化事業累計着手数	

■グリーンプロジェクト

環境事業区分	対象事業	効果の測定指標	対応する危機
エネルギーの脱炭素化と持続可能な資源利用によるゼロエミッションの実現	① 自転車通行空間の整備	整備延長	
	② 中小河川の整備	河川の整備率、調節池の貯留量	
生物多様性の恵みを受け続けられる、自然と共生する豊かな社会の実現	③ 都立公園の整備	整備面積	 

危機アイコン：  風水害  地震  火山噴火  電力・通信等の途絶  感染症

充当予定事業の紹介

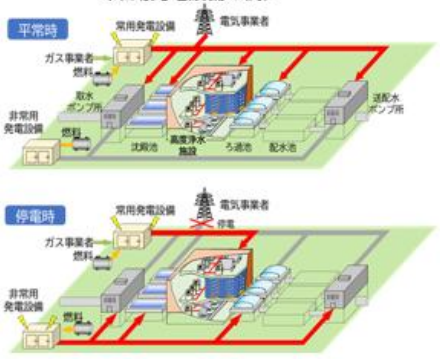
水道施設等の自家発電設備の新設・増強



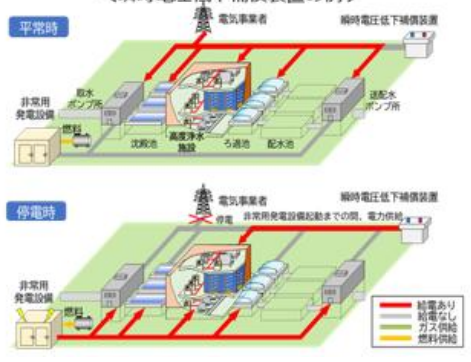
- 震災等が発生した場合、電気事業者からの電力供給が途絶する可能性があるため、水道事業の継続に向け電力の自立化を図るべく、これまでも自家発電設備の整備を推進してきました。
- 引き続き、都民生活と首都東京の都市活動を支える基幹ライフラインとして、災害に強い強靭な水道を構築していくため、自家発電設備の新設・増強を進めていきます。

<平常時及び停電時の電力供給（イメージ）>

<常用発電設備の例>



<瞬時電圧低下補償装置の例>



整備状況

	実績	目標
大規模停電時における給水確保率	71% （2025年度末）	92% （2035年度末）

橋梁の長寿命化事業



- 都の管理している橋梁の多くは高度経済成長期に集中して建設されたため、今後、一斉に更新時期を迎えます。
- 長寿命化事業では、建設時の性能を向上させて整備後適切な維持管理を行います。これにより、100年以上使い続けることを目指し、更新時期の平準化や総事業費の縮減を図ります。

長寿命化事業の整備事例



床版※の打替えにより橋の安全性と耐久性を保っています。

＊ 床版は橋の上部構造の一部で、通行車両の荷重を支える役割を果たしています。

整備状況

	実績	目標
橋梁の長寿命化（着手累計）	153橋 （2025年度末）	200橋 （2035年度末）

お問い合わせ先

東京都財務局主計部公債課

Tel　：03-5388-2681

Mail　：S0000063@section.metro.tokyo.jp

東京都HP	https://www.metro.tokyo.jp/
ＴＯＫＹＯ強靭化プロジェクトHP	https://tokyo-resilience.metro.tokyo.lg.jp/
都債HP	https://www.zaimu.metro.tokyo.lg.jp/bond

- 本資料は、都債の購入をご検討いただいている投資家の方々に、東京都の財政状況等について説明することを目的とするもので、特定の債券の売出しまたは募集を意図するものではありません。
- 本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料の中で示された将来の見通しまたは予測は、東京都として現時点で妥当と考えられる範囲内にあるものの、確実な実現を約束するものではありません。
- 東京都は、本資料の論旨と一致しない他のレポートを発行している、或いは今後発行する場合があります。本資料の利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。